

制度の一步先を行く法人として

社会福祉法人川福会は、平成24年5月に、創業者の志を継ぎ具体化するため、法人の理念を改めて定め、平成25年11月にはそのめざす到達点としてのビジョンを策定しました。

理念では、法人の責務として、「あらゆるネットワーク・社会資源を活かし、ご利用者に喜びと満足を提供」し、「地域の身近な拠点として、地域社会に貢献できる法人」となり、そして、「職員一人ひとりが、真心のこもったサービスに努め、日本一の法人」となることをめざしてきました。

ビジョンでは、「職員全員が川福会の理念を共有」し、「理念の実現に向かって、目標が事業ごとに具体的に設定され、目標を達成するために取り組む仕組みができていて、着実にそれを実践」し、「時代のニーズに合った利用者本位のサービスを常に追求する姿勢と体制」があり、「利用者に喜びとやすらぎが提供できており、社会福祉法人の地域貢献事業のかたちを明確にとらえ、地域の事情に応じた最適な事業を展開」しており、「利用者の自己実現の達成を本旨」としてそのお手伝いとよりそいのできる施設となるため法人全体でその体制づくりを進めるとともに、「社会福祉法人の使命を果たすため、財務基盤の強化とガバナンスを確立」し、社会福祉法人として自立した経営を進め、「職員が、川福会に勤務していることと及び川福会が実施している事業を誇りとし、他の法人が模範とする法人となっている」ことをめざしてまいりました。

これらの理念とビジョンの達成は道半ばではありますが、現在では、さらに多くのことが社会福祉法人に求められるようになりました。

それは、広く日本の社会を見渡すとき、第2次大戦後の日本がこれだけ経済的に反映してきたにもかかわらず、あまりにも多くの問題が出来、生きていくことに困難な思いを抱いている人が多く存在することです。人口減、高齢化、格差といった問題を始め、新たに生まれてきている問題も含めて、解決を待つ多くの人々が存在しております。これらの問題を解決するためには、社会福祉法人も、制度内の事業だけではなく、国民の各層と連携して、制度の先を歩まなくてはなりません。

振り返ってみると、私たち社会福祉法人の先達は、制度の有無にかかわらず、そこに援助が必要な人がいれば援助し、そして社会に対して、その援助の必要性を説き進め制

度の礎となってきました。当法人の創業者もその一人であります。それは、道なき道を歩み、そこに道を作ってきた歴史でもあります。

私たち川福会は、この先達の開いた道をあゆみ、さらに今の時代の課題に即応する社会福祉法人となるために、今回、理念のバージョンアップを図りました。これからは、制度の一步先を進み、新しい理念を実現する法人へと向かってまいります。

◆理念・ビジョンを達成するために

この責務の達成を図るためには、法人の姿をしっかりと作っていく必要があります、そのために次の3つの分野にわたって目標を設定しております。

- ①法人体制の充実—ガバナンス・職員教育
- ②既存事業の充実と新規事業拡大の成功
- ③地域医療との連携と地域公益活動の促進—地域共生社会の実現

1. 法人体制の充実—ガバナンス・職員教育

(1) ガバナンス

ガバナンスに十分というものはありません。当法人は、経営体制を大きく変更し、変更や社会福祉法改正に至る大きな社会の波にも立ち会ってきました。組織・事業体としての社会福祉法人のガバナンスとしては他の法人の一步先を歩いているという自負はあります。

しかし、それは、まだまだ構築途上であることを忘れてはなりません。仕組みはいくらうまく作ってもそれがきちっと運用されないと崩れてしまいます。制度が画餅になってしまいます。ガバナンスは、トップの頭の中だけにあっては意味がありません。それぞれの層でしっかりと周知され反復される必要があります、行為規範にならないと制度は担保されないのです。

私たちに必要なことは、今まで作ってきたガバナンスを担保する諸制度を運用しきることであり、その中でさらに改善を図るとともに、外からの目で私たちの作ってきた制度を検証してもらい、その結果を制度に取り込んでいくという仕事であります。